

ふれあい

Hospital Tsudanuma Central
Vol. 58
General

病院理念 「安全と信頼に基づき地域医療に貢献します」

- 基本方針**
1. 私たちは、安全で質の高い医療を実践します
 2. 私たちは、高い技術と真心で接します
 3. 私たちは、地域の医療機関と協力します
 4. 私たちは、健全な病院運営に努めます
 5. 私たちは、人間性豊かな人材育成に努めます

| | |
|----------------------------------|---|
| 新入職医師あいさつ | 1 |
| ふれあい健康講座のご案内 | 2 |
| 感染対策シリーズ インフルエンザの予防のために | 3 |
| 肺ドックのご紹介 | 4 |
| 防災訓練を実施して | 5 |
| 秋の演奏会・コンサート | 6 |

患者様の権利

1. 良質な医療を受ける権利
あなたは、どのような時でも安全な医療を平等に受けることができます。
2. 医療情報を得る権利
あなたは、自分の病気や治療方法に対して知ることができます。
3. 医療行為を選択できる権利
あなたは、自分の病気や治療に対して十分な説明を受け、治療法など自ら選択することができます。また、他の医師の意見（セカンド・オピニオン）を聞くこともできます。
4. プライバシーが守られる権利
あなたの診療に関する個人情報やプライバシーは保護されます。
5. ご自身が受けている医療について知る権利
あなたは、自分の診療記録の開示を求めることができます。

患者様へのお願い

1. 最良の医療を行うために、医師をはじめとする私達職員に、皆様の健康に関する情報をできるだけ正確に伝えてください。
2. 患者様ご自身の早い時期での健康回復・増進のために、私達職員と共に治療に参加してください。
3. すべての患者様が適切な医療を受けられるために、他の患者様の医療に支障を与えないよう協力してください。



医療法人社団愛友会

津田沼中央総合病院

〒275-0026 千葉県習志野市谷津1丁目9番17号
TEL.047-476-5111 <http://www.tcgh.jp>

〈ふれあい発行責任者〉西田 勝則 〈編集責任〉広報委員会 〈発行年月〉平成 29年 12月



AGEO MEDICAL GROUP

新入職医師あいさつ



ご
あ
い
さ
つ

内科
渡辺英綱

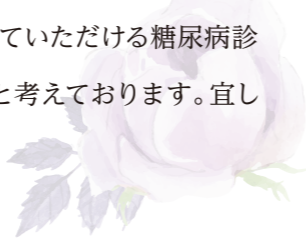


日本内科学会認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本糖尿病学会認定専門医
日本腎臓学会認定専門医
日本医師会認定産業医

患者様に満足していただける質の高い糖尿病診療を。

平成29年11月より津田沼中央総合病院に入職しました、渡辺英綱と申します。福島県出身、平成2年福島県立医科大学卒業後、約10年大学病院に勤務し、途中アメリカ、ヴァージニア州立大学に留学し、その後は福島大学の保健管理センターに約10年勤務してまいりました。6年前より東京都三鷹市に引っ越し、都内の病院にて内科、糖尿病専門医として勤務してまいりましたが、平成29年4月に津田沼に転出し、11月より津田沼中央総合病院で勤務することになりました。これまで産業医研修会出席のため、千葉市に数回いったことはありますが、まだ近隣周辺の地理、医療機関にも不慣れですので、教えて頂けると幸いです。

糖尿病診療において、良好な血糖コントロールを実現し、維持することはきわめて困難です。患者の抱える、過食、肥満、運動不足、心理的負担といった様々な問題を、担当医一人の力で解決するのはさらに困難です。病院には、看護師、栄養士、臨床検査技師、理学療法士、薬剤師、事務などの専門職種があります。医師の診察だけでは共有できない患者さんの思いを受け止め、質の高い医療を行うには各専門職種の参加が不可欠です。糖尿病に興味のある方は気軽に声をかけてください。これからは地域と連携し、皆様と協力して、患者様に満足していただける糖尿病診療を充実させたいと考えております。宜しくお願い致します。



ふれあい健康講座のご案内

平成29年度 ふれあい健康講座

年間スケジュール

場所 津田沼中央総合病院3階会議室



| 開催日時 | 開始時間 | テーマ | 担当診療科 | 担当医師 |
|----------|--------|---------|-------|-------|
| 12/21(木) | 14:00~ | 婦人科疾患 | 婦人科 | 井上 潤 |
| 1/25(木) | 14:00~ | 糖尿病 | 健康管理課 | 吉永 陽子 |
| 2/15(木) | 14:00~ | 脳卒中 | 脳神経外科 | 砂田 荘一 |
| 3/22(木) | 14:00~ | 白内障・緑内障 | 眼科 | 伊藤 陽介 |

※日時・内容は変更になる場合がございます。

過去の講座の様子



お問い合わせ ☎ 047-476-5111 (代表)

インフルエンザの予防のために

寒さが厳しくなってきましたね。この時期になると心配になるのが「インフルエンザ」の流行です。インフルエンザは飛沫感染や接触感染で拡がります。

習志野市内ではすでに学級閉鎖となったケースがあります。「インフルエンザは冬に流行するもの」ではなくなってきているのかもしれませんが、北半球と南半球では季節が逆ですが、海外旅行が身近になった現在は、自分の住んでいる国や地域の感染症の予防対策だけではもう間に合いません。

世界のどこかで起きている感染症の流行がすぐに身近にやってくるようになった。つまり「流行の時期でなくてもいつでも流行は起きる」ということです。

いつ起きるかわからない流行。予防はどうしたらいいのでしょうか。「ふだんから」「いつも」行う予防対策がとても大切になります。



インフルエンザに限らず、飛沫感染・接触感染で拡がる感染症を予防するには

① 手洗い

帰宅時・食事の前は必ず手を洗いましょう。すべての感染対策の基本は手洗いです!!

② 免疫力をおとさない

よく食べ、よく眠る、健康管理が大切です。

③ 咳エチケット

咳やくしゃみが出る時はマスクを!感染を拡げないために、もっとも大切な対策です。マイコプラズマ肺炎などインフルエンザ以外の感染症の予防対策としても非常に大切です。

インフルエンザには、ワクチンによる予防接種もあります。インフルエンザワクチンは『かからない』ワクチンではなく**重症化しないため**のワクチンです。ワクチンを接種した場合にも予防対策はとても大切です。



咳エチケット

- 咳・くしゃみの際はティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけ1m以上離れる。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュをすぐに蓋付きの廃棄物箱に捨てられる環境を整える。
- 咳をしている人にマスクの着用を促す。

マスクはより透過性の低いもの、例えば、医療現場にて使用される「サージカルマスク」がより予防効果が高くなりますが、通常の市販マスクでも咳をしている人のウイルスの拡散をある程度は防ぐ効果があると考えられています。健康な人がマスクを着用しているからといって、ウイルスの吸入を完全に予防できるわけではないことも注意が必要です。

●マスクの使用は説明をよく読んで、正しく着用する。



当院では、健診の一環として肺の様子を観察する「肺ドック」を実施しています。人間ドックのオプションとして、または肺ドックのみの単独受診としても選択が可能です。



肺ドックについて

肺ドックでは、CT装置を用いて肺の断面を観察します。検査対象となる範囲は通常の胸部CT検査と同じですが、従来の胸部CT検査に比べ約40%の被ばく線量を低減しています。検査の説明や着替えなど、事前の準備を含めても検査時間は5分～10分ほどで終わります。

肺ドックでわかること

通常の胸部レントゲン写真では見つけることが難しい小さな病変が観察しやすくなります。例えば、胸部レントゲン写真では心臓の後ろに隠れている病変は観察しづらいですが、肺ドックはCT検査のため、肺の様子を輪切りにした断面で画像表示するため、心臓や大きな血管などの影に隠れた病変も観察しやすくなります。

肺ドックは肺がんや、COPD(慢性閉塞性肺疾患)などの診断に役立ちます。

当院では、心臓や血管などが見やすい軟部条件(下図の左)と、肺や気管支などが見やすい肺野条件(下図の中央)の2つを、各々1mm間隔で画像作成しています。また、ワークステーションという画像を再構成する専用の装置を用いて、LAA解析と呼ばれる、肺の状態を点数化した定量評価(下図の右)も行なっています。



※画像はLAA解析評価の一部です。

COPDについて

COPDとは有害物質を長期間に渡って吸入することによって引き起こされる肺の炎症による病気です。その原因のほとんどはタバコです。これは肺がんにも共通しています。特に以下に該当する方は肺ドックの受診をおすすめします。

- 咳・痰が続く
- 労作時に呼吸が苦しくなる
- 喫煙経験がある...など

肺ドックに関するお問い合わせは、健診センター(電話:047-476-5134)までご相談ください。



防災訓練

災害対策委員
リハビリテーション科
内藤 太善

10月10日に習志野消防署の方を招き火災を想定した防災訓練を実施しました。

例年は出火元を事前告知し出火階のみで訓練を行っていましたが、今年は出火元を事前告知せず、現状でどれほど避難が行えるのかという視点で防災訓練を実施しました。

訓練中は、駆け付けたスタッフが災害リーダーを捜すのに時間がかかる場面もありましたが、災害リーダーを中心に各階の避難誘導・確認・報告が迅速に行えていました。実施後消防署の方からは、面会者の把握方法や避難者のそばを離れる際の声掛け方法についてご指導いただきました。

災害対策委員会では今回の反省点を考慮しマニュアルの変更を検討していきたいと思います。また今後は、地震後の出火や避難中に緊急地震速報が出た場合など、更に実際の災害に近い訓練が行えるよう取り組んでいきたいと思います。



9/28



第4回 フルートアンサンブル 秋のコンサート



今回はいつものフルートとピアノと歌のメンバーのほかに、ヴァイオリンと尺八が加わりました。



回復期リハビリテーション病棟 アクティビティチーム

習志野シニアアンサンブルによって、ボランティアで演奏を行っていただきました。今回で4回目の実施となり、次回は3月に予定しています。
患者さんに、とても喜んでいただきました。夜間不眠の方も、この日はぐっすり眠れました。という話を頂いたりしました。
患者さんの生活の楽しみを作れるよう、今後も活動を続けていきます。



10/11

リハビリテーション科 秋の演奏会



10月11日に4階デイルームにて、リハビリテーション科の有志を中心に秋の演奏会を行いました。本番当日は患者様に楽しんでもらいたいという思いで、気持ちを込めて演奏させていただきました。失敗してしまった部分もありましたが、演奏を聴いて涙を流されていた患者様もおいでのなり、楽しんで頂けたのだと思うと、大変嬉しかったです。今後もこのような活動を継続していきたいです。

リハビリテーション科 半沢実里